

		ビギナー	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
<b>レベル</b>		組織の一員として規律を守り、指導を受けながら安全確実に助産ケアができるレベル	自立に向けた指導を受けながら、チームメンバーの役割を理解し、安全確実に助産ケアができるレベル	臨床場面に置いて自律的に助産ケアを実践できるレベル	実践モデルとしてリーダーシップを発揮し、後輩を育成するレベル	助産の専門性を追求するとともに、所属の目標達成に貢献するリーダーレベル
<b>到達目標</b>		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる 2. メンバーとしての役割が理解できる 3. 病院・看護部理念が理解できる 4. 社会人としての規律を守り、行動できる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2. 助産外来・院内助産について、その業務内容を理解できる 3. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる 4. 指導を受けながら個別性のある助産が提供できる 5. チームメンバーとして役割が果たせる 6. 病院・看護部の理念を理解し、組織の一員としての責任ある行動がとれる	1. 助産過程を踏まえ個別的なケアができる 2. 支援を受けながら、助産外来においてケアが提供できる 3. 先輩助産師とともに、院内助産におけるケアを担当できる 4. ローリスク/ハイリスクの判別および初期介入ができる 5. 受け持ち助産師及びチームリーダーの役割を理解し、実践できる 6. 自己の課題を明確にし、自己研鑽できると共に、目指す助産を言語化できる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産婦・新生児の助産ケアを実践できる 2. 助産外来において、個性を考慮したケアを自律して提供できる 3. 助産外来において、指導的な役割を実践できる 4. 院内助産において、自律してケアを提供できる 5. ハイリスクへの移行を早期に発見しあらゆる場面でリーダーシップを発揮し対処できる 6. 臨床実習において、対象に合わせて効果的な指導が出来る	1. 創造的な助産実践ができる 2. 助産外来において、指導的な役割を実践できる 3. 院内助産において、指導的な役割を実践できる 4. ローリスク/ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかかわりができる 5. 所属における問題解決や目標達成に向けてリーダーシップが発揮できる
<b>倫理的感応力</b>	<b>ケアリングの姿勢</b>	①ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる ②ケアリングの重要性が理解できる ③ケアリングの主要な概念をもとに行動できる(知ること/共にいること/誰かのために行動すること/可能にする力を持つこと/信念を維持すること)		①ラダーレベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる(ケアリング実践のための自己課題を明確にできる)		①ラダーレベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる(ケアリング実践のための自己課題を明確にできる) ②ケアリングの意味、主要概念や理論について後輩・同僚に説明できる ③ケアリングの意味、主要概念や理論に基づいた実践のために、後輩・同僚に教育・指導的な役割が実践できる
<b>マタニティケア能力</b>	<b>情報収集</b>	①支援を受けながら、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生行動態診断・経過診断に必要な情報を理解できる ②定められたフォームに従い、情報収集できる ③指導を受けながら、不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる ④助産ケアの基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる	①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生行動態診断・経過診断に必要な情報を自律して収集できる ②不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる ③指導を受けながら、アセスメントに必要な情報を整理できる ④正しい用語、適切な表現で記録できる	①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生行動態診断・経過診断に必要な情報について、個別的な助産ケアを実践するために必要な情報をもれなく収集できる ②アセスメントに必要な情報を整理できる	①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生行動態診断・経過診断に必要な情報を理論的な根拠に基づいて収集できる ②心理・社会的側面、家族背景も考慮したアセスメントを行うために情報収集できる ③②の情報を、必要性・優先度を考慮して整理できる ④他職種からも意図的に情報収集できる	①対象の個性や心理・社会的側面、家族背景など全体をとり、必要な領域に絞って選択的に情報収集できる
	<b>アセスメント(ニーズ)の明確化</b>	<b>ローリスク</b> ①妊産婦・新生児のバイタルサイン、検査値、身体諸計測値の正常値がわかる ②産科に関連する解剖生理を理解できる ③支援を受けながら、測定値の意味を理解できる ④支援を受けながら、収集した健康生行動態診断・経過診断の情報を分析できる ⑤周産期の代表的疾患について病態が理解できる	<b>ローリスク</b> ①妊産婦の正常経過および新生児の生理が理解できる ②支援を受けながら、収集した健康生行動態診断・経過診断の情報を分析できる <b>ハイリスク</b> ①周産期の代表的疾患(切迫流産、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤)の病態生理および検査、多胎妊娠のリスクについて理解できる ②妊産婦および新生児の異常への対処と援助が理解できる	<b>ローリスク</b> ①収集した健康生行動態診断・経過診断の情報を分析できる ②妊産婦・新生児のニーズを明確にできる ③ニーズの優先順位を決定することができる <b>ハイリスク</b> ①妊産婦・新生児に起こっている問題を明確にできる ②問題の優先順位を決定することができる	<b>ローリスク</b> ①潜在するニーズを明確にできる <b>ハイリスク</b> ①潜在する助産問題を明確にできる ②助産問題と共同問題を明確に区別できる	<b>ローリスク/ハイリスク</b> ①診断プロセスに沿って対象のもつリスクを踏まえ正しく診断できる(院内助産対象の選定ができる) ②診断に至る根拠を他の助産師や医療チームメンバーに説明できる ③診断プロセスに沿った診断ができるように指導できる
	<b>診断</b>	①支援を受けながら、健康生行動態診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる	①必要に応じて支援を受けながら、健康生行動態診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる	①健康生行動態診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる ②診断した内容から問題の優先順位を考えることができる	①健康生行動態診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる ②診断した内容について、助産師によるケアでよいか、医師による医療介入が必要かを考慮したうえで、優先順位を判断できる	①診断した内容を妊産婦を含めた医療チームで共有できる ②診断した内容や問題の優先順位について指導できる ③緊急時に短時間で必要な情報収集・アセスメントを行い、優先順位を考えて診断できる
	<b>計画立案</b>	①妊産婦・新生児の現在の状態およびニーズを理解できる ②支援を受けながら、妊産婦・新生児のニーズに沿って目標を設定できる ③支援を受けながら、妊産婦・新生児の状態、問題リスト、目標に一貫性がある計画を立てられる ④5W1Hを踏まえた具体的な計画を立案できる ⑤助産ケア基準・標準助産計画を活用できる	①妊産婦・新生児のニーズに沿って目標を設定できる ②妊産婦・新生児の状態、問題リスト、目標に一貫性がある計画を立てられる ③5W1Hを踏まえた具体的な計画を立案できる ④支援を受けながら、妊産婦および家族参加型で助産計画を立案できる	①妊産婦・新生児の個性を踏まえた助産計画を立案できる ②立案した助産計画を評価・修正できる ③妊産婦および家族参加型の助産計画を立案できる	①妊産婦・新生児の心理・社会的状況や家族の状況を踏まえた助産計画を立案できる ②状況に応じて計画立案・修正できる ③妊産婦および家族参加型の助産計画を立案・修正できる ④他職種との連携も含めた計画を立案・修正できる	①妊産婦・新生児における優先度を考え、助産問題に適した方法論を用いて計画を立案できる ②対象の問題を解決するために適切な目標(到達・測定・評価することが可能な目標)を設定できる ③計画立案のプロセスにおいて教育・指導的な役割が実践できる
	<b>実践</b>	①助産行為を行う前に必ず説明できる ②新人研修の内容を確実に実施できる ③支援を受けながら、受持ち妊産婦・新生児の助産ケア計画に沿ってケアを実践できる ④治療および診断上必要な観察を行い、適切に報告できる ⑤指示された業務を、助産ケア基準・手順に沿って正しくかつ安全に実施できる ⑥実施した結果を助産記録の手順に沿って正しく記録できる ⑦緊急時の対応を理解している ⑧緊急時に人を呼ぶことができる ⑨緊急時に必要な物品を知り、手順に沿って整備できる ⑩クリニカルパス使用の場合、それを理解できる	①助産行為を行う前に必ず説明できる ②支援を受けながら、基本的助産技術が実施できる ③担当した対象について、助産ケア計画に基づき、基準や手順に則り安全確実に助産ケアを実践できる ④助産ケア基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる ⑤緊急時に、1次・2次救命処置ができる(新生児蘇生も含む) ⑥クリニカルパス使用の場合、パスに沿って実践できる	①助産ケア計画に則り実践できる ②妊産婦・新生児の状態や反応を判断しながら、必要なケアが行える ③現在挙げられているニーズや問題以外の新しい情報を、時期を逸せず記録し、計画の追加や修正ができる ④緊急時にメンバーとして行動できる	①計画に基づいて妊産婦・家族の反応を確認しながら実践できる ②施設・部署全体の妊産婦・新生児ケア実践において、中心的役割が実践できる ③緊急時に中心的役割が実践できる ④助産外来において、教育・指導的な役割が実践できる	①助産実践において創造性と刷新性を発揮できる ②多様なアプローチを組み入れて看護・助産ケアが実践できる ③緊急事態にリーダーシップを発揮し対応できる ④常に教育・指導的な役割が実践できる ⑤教育・指導的な役割のスタッフを支援できる
<b>評価</b>	①提供した助産ケアの結果を正確に報告できる ②助産実践においてわからないことが言える	①助産実践における疑問点を質問し、解決できる ②支援を受けながら、根拠に基づき自分の行った助産を評価できる ③継続する問題について計画を修正できる ④助産実践を要約して記述できる	①提供した助産ケアの結果を、根拠に基づき評価できる ②目標の達成度の結果を評価でき、計画を修正できる ③行ったケアを要約して説明・記述できる ④クリニカルパス使用の場合、バリエーションを評価できる	①提供した助産ケアについて、妊産婦・新生児・家族のニーズに合っていたか評価できる ②後輩・学生のロールモデルとなっているか自己評価できる	①提供した助産ケアについて質的・量的に評価できる ②スタッフの助産ケアを評価し、指導できる ③部署の記録監査の結果を踏まえ、行った助産の評価・指導ができる	

		ビギナー	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
<b>レベル</b>		組織の一員として規律を守り、指導を受けながら安全確実に助産ケアができるレベル	自立に向けた指導を受けながら、チームメンバーの役割を理解し、安全確実に助産ケアができるレベル	臨床場面に置いて自律的に助産ケアを実践できるレベル	実践モデルとしてリーダーシップを発揮し、後輩を育成するレベル	助産の専門性を追求するとともに、所属の目標達成に貢献するリーダーレベル
<b>到達目標</b>		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる 2. メンバーとしての役割が理解できる 3. 病院・看護部理念が理解できる 4. 社会人としての規律を守り、行動できる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2. 助産外来・院内助産について、その業務内容を理解できる 3. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる 4. 指導を受けながら個別性のある助産が提供できる 5. チームメンバーとして役割が果たせる 6. 病院・看護部の理念を理解し、組織の一員としての責任ある行動がとれる	1. 助産過程を踏まえ個別なケアができる 2. 支援を受けながら、助産外来においてケアが提供できる 3. 先輩助産師とともに、院内助産におけるケアを担当できる 4. ローリスク/ハイリスクの判別および初期介入ができる 5. 受け持ち助産師及びチームリーダーの役割を理解し、実践できる 6. 自己の課題を明確にし、自己研鑽できると共に、目指す助産を言語化できる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産婦・新生児の助産ケアを実践できる 2. 助産外来において、個性を考慮したケアを自律して提供できる 3. 助産外来において、指導的な役割を実践できる 4. 院内助産において、自律してケアを提供できる 5. ハイリスクへの移行を早期に発見しあらゆる場面でリーダーシップを発揮し対処できる 6. 臨床実習において、対象に合わせて効果的な指導が出来る	1. 創造的な助産実践ができる 2. 助産外来において、指導的な役割を実践できる 3. 院内助産において、指導的な役割を実践できる 4. ローリスク/ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかかわりができる 5. 所属における問題解決や目標達成に向けてリーダーシップが発揮できる
<b>教育</b>	<b>教育・指導</b>	①継続教育プログラムの意義を理解できる ②支援を受けながら、自己のレベルに合った院内・院外の研修や勉強会に積極的に参加できる ③POSの概念、具体的な記載方法がわかる	①継続教育プログラムに自主的に参加できる ②自己のレベルに合った、院内・院外の研修や勉強会に積極的に参加できる ③支援を受けながら、ローリスクを対象とした保健指導が実施できる(個別・小集団) ④教育・指導についての基本的事項を理解できる ⑤支援を受けながら、受け持ち助産師の役割が果たせる	①継続教育プログラムや院内・院外研修に、目的をもって自主的に参加できる ②自施設における教育指導に参加できる(新人や後輩、学生への指導) ③ローリスクを対象とした保健指導が実施できる(個別・小集団) ④教育における評価が理解できる ⑤受け持ち助産師の役割が果たせる	①後輩、学生の指導において中心的役割を担うことができる ②病棟内の学習会で中心的役割を担うことができる ③施設内の教育(後輩や学生)について企画運営に参画できる ④成人学習のプロセスについて、基本的事項を理解できる ⑤あらゆる対象への保健指導を実施できる ⑥スタッフへ計画立案の指導ができる	①自己のキャリアや専門性を踏まえ、計画的に院内・院外の継続教育プログラム・研修に参画できる ②施設内の教育(後輩や学生)について、企画運営も含めて中心的な役割を担うことができる ③②について、他部門との連携も考慮して企画運営できる ④病棟内の目標を達成するために、後輩が具体的に行動できるよう支援できる ⑤教育に関する知識を活かして、後輩が能力を活かせるよう支援できる ⑥保健指導に関して教育指導的な役割を担うことができる ⑦部署の看護記録監査結果を踏まえ、情報収集、問題の明確化、計画の立案について指導ができる
	<b>自己開発</b>	①日々の行動を振り返り、整理することができる ②他者のアドバイスを素直に受け止めることができる ③支援を受けながら、自己評価と他者評価を踏まえた自己の学習課題を考えることができる ④支援を受けながら、課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ⑤支援を受けながら、学習の成果を自らの助産実践に活用できる ⑥当院のキャリア開発システムの概要がわかる	①自己評価と他者評価を踏まえた自己の学習課題を考えることができる ②課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ③学習の成果を自らの助産実践に活用できる	①自己課題を明確にできる ②主体的に、課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ③学習の成果を自らおよび施設における助産実践に活用できる	①自己のキャリアや専門性を踏まえ、計画的に院内・院外の継続教育プログラム、研修に参加できる ②専門分野を深めるための自己課題を明確にし、取り組むことができる ③取り組んだ結果を実践に活用できる	①自分のキャリアプラン(教育・管理・実践)を計画できる ②計画を実行するための具体的な方法を考え、進むことができる
<b>専門的自律能力</b>	<b>研究</b>	①院内外の研究発表会に参加し、研究に関心をもつことができる	①日常の行動の中で「なぜそうするのか」を考えることができる ②自らの関心に合わせて、院内・院外の研究発表会に参加できる	①日常の実践から、研究疑問を見出すことができる ②メンバーの一員として研究に参画できる	①研究的取り組みを計画し、スタッフとともに実践できる ②研究的取り組みの結果を発表できる	①研究的取り組みの結果を臨床実践で応用できる ②助産の質向上を目指した研究の実施し、結果を院内・院外に広めることができる ③スタッフへ研究の支援ができる
	<b>協働</b>	①助言を受けながら対象を看護するために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる ②助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる ③助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる ④対象を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる ⑤連絡・報告・相談ができる	①対象を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれ積極的に情報交換ができる ②関係者と密にコミュニケーションを取ることができる ③看護の展開に必要な関係者を特定できる ④看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	①対象の個別ニーズに対応するために、その関係者と協力しながら多職種連携を進めていくことができる ②対象とケアについて意見交換できる ③積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	①対象がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる ②多職種間の連携が機能するように調整できる ③多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	①複雑な状況(場)の中で見えにくくなっている対象のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる ②多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる ③関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる ④目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
	<b>コミュニケーション(対人関係)</b>	①対象のニーズを身体・心理・社会的・スピリチュアルな側面から把握するように努められる ②対象を一個人として尊重し、傾聴・共感的態度で接することができる(笑顔、挨拶、自己紹介、言葉遣い、約束を守るなど) ③対象中心のサービスであることを認識して接するように努められる ④言語的・非言語的コミュニケーション技法について理解できる ⑤支援を受けながら、対象が納得できる説明を行い、同意を得られる ⑥守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮できる ⑦5W1Hを踏まえてメモをとり、正確に伝達できる	①対象のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる ②対象中心のサービスであることを認識して接することができる(忙しさや自らの業務中心にならないよう努める) ③言語的・非言語的コミュニケーション技法を用いてコミュニケーションできる ④対象が納得できる説明を行い、同意を得られる	①妊産婦の言動を手がかりに潜在的ニーズや問題に気づき、理解することができる ②助産計画の修正・追加時などに、主体的に対象・家族が納得できる説明を行い、同意を得られる ③自己の感情をコントロールし、専門職として患者・家族に対応できる	①自分の対応が相手に与える影響を予測しながら行動できる ②妊産婦・家族の反応の変化を見逃さず、受け止めることができる ③状況に応じてアサーティブなコミュニケーションをとることができる	①対象・家族と、よりよいパートナーシップが築ける ②直接的助産ケアを行いながら、対象・家族の反応、周囲の状況を把握し、対象・家族を尊重した適切なコミュニケーションを図ることができる ③コミュニケーションに関して、教育指導的な役割を実践できる

		ビギナー	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ
レベル		組織の一員として規律を守り、指導を受けながら安全確実に助産ケアができるレベル	自立に向けた指導を受けながら、チームメンバーの役割を理解し、安全確実に助産ケアができるレベル	臨床場面に置いて自律的に助産ケアを実践できるレベル	実践モデルとしてリーダーシップを発揮し、後輩を育成するレベル	助産の専門性を追求するとともに、所属の目標達成に貢献するリーダーレベル
到達目標		1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる 2. メンバーとしての役割が理解できる 3. 病院・看護部理念が理解できる 4. 社会人としての規律を守り、行動できる	1. 健康生活支援の援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2. 助産外来・院内助産について、その業務内容を理解できる 3. ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる 4. 指導を受けながら個別性のある助産が提供できる 5. チームメンバーとして役割が果たせる 6. 病院・看護部の理念を理解し、組織の一員としての責任ある行動がとれる	1. 助産過程を踏まえ個別的なケアができる 2. 支援を受けながら、助産外来においてケアが提供できる 3. 先輩助産師とともに、院内助産におけるケアを担当できる 4. ローリスク/ハイリスクの判別および初期介入ができる 5. 受け持ち助産師及びチームリーダーの役割を理解し、実践できる 6. 自己の課題を明確にし、自己研鑽できると共に、目指す助産を言語化できる	1. 入院期間を通して、責任をもって妊産婦・新生児の助産ケアを実践できる 2. 助産外来において、個性を考慮したケアを自律して提供できる 3. 助産外来において、指導的な役割を実践できる 4. 院内助産において、自律してケアを提供できる 5. ハイリスクへの移行を早期に発見しあらゆる場面でリーダーシップを発揮し対処できる 6. 臨床実習において、対象に合わせて効果的な指導が出来る	1. 創造的な助産実践ができる 2. 助産外来において、指導的な役割を実践できる 3. 院内助産において、指導的な役割を実践できる 4. ローリスク/ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかわりができる 5. 所属における問題解決や目標達成に向けてリーダーシップが発揮できる
専門的自律能力	倫理	社会性	①職務規定を理解し、それを遵守して行動できる(遅刻・早退・無断欠勤をしない、提出書類の期限を守る等) ②規定に基づき、速やかに報告・連絡・相談できる ③社会人また助産師としての自分の行動・言動に責任をもつことを理解できる ④助産師として、自分の健康管理の必要性がわかり行動できる ⑤助産師としてのアイデンティティをもち、その専門性・自律性を理解して実践できる			
	倫理	助産倫理	①ICM-助産師の国際倫理綱領、ICN-看護師の倫理綱領および日本看護協会-看護師の倫理綱領を理解できる ②助産業務に関連する生命倫理を意識できる ③職業人としての自覚をもち、倫理に基づいて行動できる	①妊産婦・家族の価値観を理解できる ②価値の多様性、お互いの価値を尊重することの重要性を理解し、行動できる ③支援を受けながら、法的根拠に基づいた実践ができる	①倫理的意思決定のプロセスに参画できる ②①においては、対象・家族の視点を理解し、必要な情報提供等の支援ができる ③倫理的課題に対して、対象や家族、関連する職種と対話をもちながら、最善の選択ができるよう行動できる ④法的根拠に基づいた実践ができる ⑤学生指導や研修生の実習に伴う助産師・看護師の法的責任について理解し、実践できる	①倫理的意思決定場面においてコーディネート役割を担うことができる ②部署における倫理的な感受性を高めるよう行動できる ③学生指導や研修生の実習に伴う法的根拠について、教育・指導的役割が実践できる
	管理(マネジメント)	安全	安全管理・安全確保 ①自施設における医療安全管理体制について理解できる ②インシデント事例や事故事例を速やかに報告できる ③インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら経過を振り返ることができる ④インシデント事例や事故事例についての報告・記録方法がわかる ⑤周産期に起こり得る事故について、支援を受けながら予測でき対策をとることができる(新生児の取り違い、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、やけど、盗難など) ⑥規定に沿って適切に医療機器・医療器具を取り扱うことができる(使用した物品を確実に片付けできる、病院救急カート使用後の手順がわかる等) ⑦与薬の原則を理解して実施できる ⑧支援を受けながら、器具・器材の破損・紛失・故障時は速やかに報告でき、所定の手続きができる 感染予防 ①自施設における感染予防管理体制について理解できる ②①に則って行動できる(スタンダードプリコーション、必要な防護具選択、衛生学的手洗い、無菌操作、清潔・不潔の区別、医療廃棄物規定に則った適切な取り扱い等) 災害・防災管理 ①自施設における災害・防災管理体制について理解できる ②部署の管理体制(消火設備、避難経路)などがわかる ③②に基づいて日常的に行動できる(病棟入口の戸締り、面会者の確認など) ④災害発生時の初期対応がわかる ⑤災害時、指示に従い、④の行動ができる ⑥定期的な災害訓練に参画できる 情報管理 ①自施設における情報管理体制について理解できる ②①に基づいて行動できる(記録、PC、パスワード、患者情報など)	安全管理・安全確保 ①インシデント事例や事故事例について、経過を振り返ることができる ②インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら今後活かせる対策を考えることができる ③周産期に起こり得る事故を予測でき、対策をとることができる(新生児の取り違い、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、やけど、盗難など) ④事故発生時、対象の生命を優先して判断し行動できる 感染予防 ①自施設の体制に則って行動できる 災害・防災管理 ①災害時に、主体的に初期対応が実践できる 情報管理 ①自施設の体制に則って行動できる	①療養環境が安全であるか常に配慮し、調整できる ②アクシデント・インシデント・感染防止・災害対策に関して中心的役割を担うことができる ③職員の安全が確保できる職場環境を整えるために取り組める ④医療機器を安全に使えるように環境調整できる ⑤備品・医療材料に関する法令(PL法※など)に関心をもつことができる	①療養環境が安全であるか常に配慮し、後輩に教えることができる ②インシデント・アクシデント報告から、看護単位における問題を発見できる ③②の問題に対して、管理監督職とともに解決策を考えることができる ④対策を実施し、その結果を評価、フィードバックできる
	経済性	①診療報酬制度が病院の経営に関連していることがわかる ②支援を受けながら、費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる ③自施設の物流システムが理解できる	①診療報酬制度と日常業務の関連性がわかる ②費用対効果を考慮して、自ら工夫して物品を適切に選択・準備・使用できる ③支援を受けながら、時間内に必要な助産ケアができる	①診療報酬と日常業務を関連させて行動することができる ②費用削減に関する部署の課題に気づくことができる ③自ら調整して、時間内に必要な助産ケアができる	①診療報酬制度などの医療政策に関連していることがわかる ②経営改善推進の取り組みに参加できる ③自施設の物流システムを理解でき運用できる	①診療報酬制度と社会変化が関連していることがわかる ②経営改善推進に向けて、積極的に行動できる
	リーダーシップ	①施設および看護部の理念を理解できる ②施設および看護部の組織と機能を理解できる ③チャレンジプランの意義が分かる	①施設および看護部の理念を理解し、行動できる ②施設および看護部の組織と機能を理解し、行動できる ③リーダーの役割を理解できる ④チャレンジプラン達成に向けて計画的に実施できる	①よりよいチームワークを目指して的確に行動できる ②リーダーシップの概念が理解できる ③助産チームの業務が円滑かつ的確に実施できるよう、チームメンバーに指示できる ④自主的に目標達成に向けた取り組みができる	①助産業務における調整機能を発揮できる ②後輩からの相談を受け、支援できる ③他者のチャレンジプランの支援ができる ④所属の委員会、会議においてリーダーシップを発揮することができる	①看護部や看護単位の目標に基づいた活動を推進できる ②看護単位における委員会や係、会議の推進ができる ③看護単位の業務改善に主導的な立場で取り組むことができる ④後輩と師長・監督職とのパイプ役となれる ⑤自己の判断でできることと、できないことが区別できる

\* PL法:製造物責任法。Product liability:製造物責任

\* 質的評価:「医療機関における助産ケアの質評価—自己点検のための評価基準—第2版」(日本看護協会)は、助産ケアの質向上を目的として作成された。

評価基準の精度と妥当性の検討のため、ICMのコア・コンピテンシーの内容を参考しており、項目は「ケアリング」「妊娠期の診断とケア」「分娩期の診断とケア」「産褥期の診断とケア」「新生児期の診断とケア」「母子訪問」「助産ケアの機関・施設の機能(管理者用)」から成る

看護ケアの質評価に関しては「看護ケアの質の評価基準に関する研究」(主任研究者:片田範子)により、看護ケアの質を構造・過程・成果の3つの側面において評価する方法(第三者評価が開発された。それぞれの評価については下記のとおり

【構造の評価】

①看護師の条件:資格・経験年数等、②看護に必要な設備、③看護記録様式、④看護に必要な資料、⑤業務基準・手順の整備、⑥協働、事故防止システム

【過程の評価】①ケア時の看護師の動き・考え・判断、②看護計画の内容、③他職種との連携活動

【結果の評価】①患者満足度、②インシデントの発生状況